



「ささえ～る」

広報委員会

※『ささえ～る』とは、「佐々木」・「ささえ」・「エールを送る」の意味を込めた造語です。

作業療法
作品展



理事長・院長

菊野恒明

『水到渠成』

9月に入りこの暑さは珍しいですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

以前、秋田にいた頃、空素神社という龍神様を祭る神社に書を奉納する機会がありました。知り合いの書家の先生に、勤務先の病院が繁栄する水にまつわる言葉がないか尋ねたところ、この言葉を書にいただきました。「水到渠成（すいとうきょせい）」と

は、「一滴の水もしたたって重なり落ちるうちに硬い大地にみぞが出来上がる。それと同じように、日々地道に成すべき努力を積み重ねていけば、不可能と思われるような事もいつか自然に成就する」という意味です。この言葉に共感し、今では私の座右の銘となっております。当院も、職員一人ひとりが医療の質の向上に日々地道に努力し、地域から必要とされる病院になっていきたいと考えております。

これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【特別企画】病院行事を支える人たち

紅白歌合戦

3月14日(水)に当院恒例のひな祭り会があり、紅白歌合戦が行われました。インフルエンザがはやっただけで、一時は予定通り開催されるか心配でしたが何とか開催されました。私は療養委員会で司会を担当することになっていました。インフルエンザのため、患者様も私たちも例年のように十分な練習ができず、当日を迎えることになりました。

私は、司会でずっと裏方にいましたが、患者様の迫力ある歌声が私の心にしっかり響いてきました。皆さん自分の出番になるまで裏方で緊張した様子で待っておられたのに、自分の番が来ると堂々と歌っておられ感動しました。会場の患者様も楽しそうに盛り上がりおられたので開催できて良かったなと思えました。私も慣れていない司会を相手方の高田さんにフォローしてもらい、何とかやり遂げることができて一安心しました。



当院には伝統的な行事がいくつかありますが、患者様、スタッフみんなで作り上げるからこそ感動が生まれ、受け継がれるのだと思います。

療法委員会 永田



七夕祭り

2012年8月アスリートの夢の祭典、ロンドン・オリンピックの開催中、当院の「七夕祭り」も8月8日に開催されました。今回、午前の部は民謡を中心とした構成で企画を行いました。特別出演として、ボランティアのサークルグループにお越しいただき「越中富山玉すだれ」を披露していただきました。「玉すだれ」は富山県五箇山が発祥地で富山の郷土芸能として、患者様に知ってもらいたく、出演を依頼しました。

「玉すだれ」を初めて目にされた患者様も多く、興味深く、目を凝らして見入っておられました。その他、スタッフによる「越中おわら」「ドンパン節」「よさこい」等を披露し、喜んでいただけたのではないかと思います。



午後の部は模擬店をしました。たくさんの方が参加され、大盛況のうち終えることができました。ひとつの行事は、決して一人で成し遂げることはできません。スタッフ一人ひとりの協力があつてこそ、チームワークが生まれ「団結」という力が出ることを改めて、今回の「七夕祭り」で知らされたように思います。

患者様の色鮮やかな短冊には、社会復帰への願いが厚くこめられていました。その願いを我々療法スタッフとして、早く叶うよう療法活動向上に日々精進して行かねばならないと思えました。

療法委員会 浜屋



第10回家族会報告 (平成24年6月4日開催)

今回の家族会開催で第10回目を迎えることができました。会を重ねる度に、参加されるご家族も増え、15名のご家族が参加されました。

テーマを「薬との上手な付き合い方」とし、製薬メーカーの方においでいただき、分かりやすく講義していただきました。

午後から意見交換会があり、日頃の通所者様との関わりの中で、不安や心配等を気軽に話し合いされました。どのご家族も思いは同じで、今後、親亡き

後通所者様一人でどのようにして生活をしていくのか、とても悩んでおられ、将来の不安を強く持っておられました。

そのため、次回の家族会のテーマは精神保健福祉士による「将来に向けての支援」を考えております。今回同様、たくさんのご家族に参加していただき、一つひとつの不安を皆様と共有することで、多少でも心穏やかに過ごして頂けたら幸いです。

アンダンテ 宮本

看護部長 新任のあいさつ



4月より看護部長に就任致し、能登地方（中能登町）より通っています。富山は食も自然も人の温かさも素晴らしい、北陸自動車道から立山連峰が見えた日はなんだか得した気分で癒されます。

久しぶりの現場では、患者様やスタッフから力を戴いています。看護も教育も、相手の潜在能力を引き出すこ

とが本質だと考えていますので、看護部の皆さんには負担になり過ぎないように気を配りつつ、できるだけ成長を促していきたいと思っています。

オリンピックでは、選手たちの懸命な姿が感動的でした。涙を流して成長した者だけが見える景色を、一人でも多くの人と見ることができればと願っています。

看護部長 長井麻希江



今年から一緒に働くことになった職員の皆さんにインタビューしてみました。

当院の印象は？

- ・とてもアットホームな感じがします。
- ・笑い声が多い病院
- ・職員の皆さんがとても親しみやすく働きやすいと感じました。
- ・明るい方、親切な方ばかりでとても働きやすい職場です。
- ・とてもアットホームな雰囲気だなと感じました。
- ・准看護実習での精神科の印象と違い、病棟内の雰囲気が明るく感じました。
- ・職員同士の仲が良く、和やかで明るい印象です。
- ・男性の多い職場だなと感じました。
- ・スタッフの皆さんが明るく元気！



～ 皆さんの多彩な趣味 ～

サッカーをすること。観ること。ソフトボール、釣り／映画鑑賞：アクション映画、ヒューマンドラマをよく見ます／プロレス（観戦）／スポーツ観戦／ジャパニーズ・チェス／温泉銭湯巡り／LIVE鑑賞（ロック・パンク・アニソン色々）／酒を飲むのが好きです。店飲みでも宅飲みでも！／ボウリングやカラオケ

今後の抱負

- ・一生懸命、仕事を頑張ります。（松井さん・准看護師／看護学生）
- ・無事に看護学校を卒業し、看護師になることです。（若林さん・准看護師／看護学生）
- ・押ッス！（宇城さん・准看護師／看護学生）
- ・看護学校で学んだことを少しでも職場で活かしていきたいです。（水口さん・看護補助者／看護学生）
- ・何事にも本気で取り組んでいきたいです。（伊藤さん・精神保健福祉士）
- ・指示を仰ぐばかりでなく、自分で考えて良いと思ったことを自信持って行動できるようにしていきたいです。（高松さん・看護補助者／看護学生）
- ・（看護学校の）受験一発合格。（高坂さん・看護補助者）
- ・早く仕事になれたいと思います。（宮本さん・看護補助者）
- ・頑張ります。（稲坂さん・看護補助者）
- ・早く皆さんに「安心」して頂けるように頑張ります。（今泉さん・管理栄養士）

かぁ、どうなんけ？先生！

『お薬について』 法木先生（精神保健指定医）

あなたは精神科の薬をどんな理由で飲んでいますか。

「飲まないと言治医や家族に叱られるので、仕方なく飲んでいる」

「ふらつきや眠気のような症状があるけれど、仕方なく飲んでいる」

こんなことはないでしょうか。

私は一人ひとりの患者様と話し合っ、なぜその薬が必要なのか、どんな症状に効果があるのかを、きちんと理解し納得してもらいたいと思っています。今は抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬・睡眠導入剤は、どれもたくさんの種類があり、どれがどの患者様と相性がいいかはさまざまです。症状にたとえると、不眠の

場合では、寝付けない人と、朝早く目が覚めてしまう人では薬がちがいます。うつ病の場合でも、意欲がなくなってしまった人と、気分の落ち込みが強い人では薬がちがいます。薬の剤形も、錠剤・粉・液体・口の中で溶ける薬などいろいろあります。

何か薬に疑問や不安があるとき、副作用のような症状が出てきたときは、我慢せず、必ず主治医に相談してください。どんな解決方法があるか、一緒に考えていきましょう。

最後にもう一度、患者様が薬の効果をきちんと理解して、自分で責任を持って薬を飲むのがベストだと信じています。



給食委員会の取り組み

当院の給食委員会では、「入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養の実施上の留意事項」に基づいて運営しています。

給食委員会は病院組織全体で給食運営に取り組んでいくために

設置し、委員は看護師、栄養士を中心に構成しています。給食を運営する上での安全面、衛生面の他、障害の有無、褥瘡の状態、精神症状に留意し検討しており、病棟看護部やデイケア施設、委託業者と連携を取りながら病院給食の質の向上と患者様へのサービスの改善を目標に活動しています。これまで、適温給食のために保温食器の購入や患者様の日々の献立や行事食の検討、改善などを行ってきました。より多くの患者様に喜んでいただけるような安全で安心な給食の提供を、委員一同目指しています。



【七夕行事食】

給食委員会 笹山



フィールド・ラベンダー

こんにちは、フィールド・ラベンダーです。私たちは、支援センター・就労支援事業・グループホームの3つの形で地域生活をしながら、こころの病気に悩んでいる方たちを支援しております。



支援センターは、憩いの場、仲間作りの場、また、困ったことがあったときには一緒に相談したり、解決の為に一緒に動いたり、地域での生活がより良くなる為のお手伝いをしております。

就労支援事業は、仕事をする為の訓練を行っております。働きたいけれどまだ自信が無い方や、生活リズムを安定させたい方等、それぞれの目的に応じて利用していただいております。訓練を通して社会復帰を目指しております。

グループホームでは、地域での生活に不安を感じておられる方に入居していただき、生活していく力を身に付けていけるようにお手伝いさせていただきます。

この3つの形で皆様の生活をお手伝いさせていただきます。皆様の思いに添えるように一生懸命やさせていただきますので、興味をもたれた方は是非ご来所ください。お待ちしております。

精神保健福祉士 澤田

アンダンテバーベキュー報告

アンダンテでは7月9日（月）にバーベキューを実施しました。初めての試みでしたが、ボリューム満点のバーベキューランチは、通所者様に大好評でした。企画・準備・実施のすべてにわたり通所者様にも協力していただき、当日は焼きそばやおにぎりの調理から会場準備までみんなで分担して行いました。

炭になかなか火が点かないというハプニングもありましたが、夏の太陽の下でお肉や野菜を焼き、美味しく楽しく食す事ができました。アンダンテでは、今回のバーベキューのように様々な行事を通所者様とともに企画・実施していきます。



通常のプログラムに比べてこの様な行事は、準備等大変な部分もありますが、みんなで力を合わせて一つのことを成し遂げる達成感は大きく、通所者様の表情も生き生きと輝いていてスタッフ一同大変うれしく感じています。

アンダンテ 吉田



医療法人社団 重仁 佐々木病院

住所 〒939-8073 富山県富山市大町1番地
電話 (076)425-2111 / FAX (076)425-2112
ホームページ <http://www.sasakihp.or.jp/>

精神科デイケア・精神科デイナイトケア

アンダンテ

電話 (076)423-2114(直通)

指定障害福祉サービス事業所・地域生活支援事業所

フィールド・ラベンダー

住所 〒939-8073 富山県富山市大町3-4
電話 (076)495-1555 / FAX (076)495-1666
ホームページ <http://www.field-lavender.net/>

編集後記

広報誌も今回で3回目の発行となりました。読んでいただいている皆様、できるだけ旬な当院の情報を提供していきたいと考え、昨年度は年2回の発行でしたが、今年度は年3回の発行を予定しております。

これからも、当院の取り組みを広く知っていただき、地域の方々から必要とされる病院を目指し、広報誌を発行していきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

広報委員会 吉田